

岐阜支部総会を開催しました

岐阜支部 上野秀美



岐阜県版
第410号
2024年9月15日

治安維持法国際同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7-13
岐阜県教育会館308号室
Tel 058-252-5366
振替00840-2-88638

8月3日、午後、とても暑い日の開催でした。はじめに、今年一年間にお亡くなりになった方6名に黙祷しました。村瀬優さん、奥住易之さんはこの間までお元気で活躍されていました。柴田一雄さん、野々村良平さん、木谷正博さんは同盟創立以来から中心になって力を注がれました。山口正光さんも創立以来からの会員でした。「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」ために頑張り続けられた方々でした。

議事では一年の経過報告と今年度の方針と役員を決めました。

映画「種まく人びと」の上映では、最初の場面に治安維持法による犠牲者・杉浦正男さん、水谷安子さん、菱谷良一さん、松本五郎さんが国会請願に向かう場面から始まりました。その中の幾人かはもう亡き人になりました。生きているうちに謝罪させたかったとせつなく思いました。

小樽に舞う雪景色が、多喜二や千代子の命を奪った厳しい冬の時代を想わせます。

山田朗・明治大学教授は「侵略戦争への反省の欠如が犠牲者への謝罪、賠償を果たし得ない。どんな時代でも自由と民主主義を求める人たちが根絶やしに出来ない」と語っています。

目今の運動が敗北しても、その運動や思想が拡散していくことから「種まく人びと」の題名が付けられました。

私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法であることを認めること
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事



終戦記念日・今年の関市での活動

中濃支部 山田 弘

毎年行なっている八月十五日の終戦記念日の街宣は、前日の岸田首相の総裁選不出馬表明と重なって情報が二倍化した。

昨年までは、東部地域では毎週土曜日の早朝八時からやる支部街宣の一方所として行なっていたが、第三月曜日の全国統一街宣日に合わせて一〇時からやることに変わっていた。

しかし、八月十五日は盛夏でもあり九時から一〇時半まで一時間半を予定して実施した。

関市パロー東店前で第一回の街宣、五名が参加し猿渡市議が一五年戦争の惨禍と日本国憲法の成立、その意義を訴え、二〜三名でビラ配布をした。

強い日差しの中で、「今日はどういう日ですか、ご存じですか」と声をかけビラを手渡した。「暑い中、苦勞様、熱中症にならんように」と励まされながら、三カ所程で一〇〇枚のビラはなくなった。

しかし、街宣力所での対話は数人、ポスティングが中心になってしまった。

宣伝参加者五名、宣伝力所五カ所、

宣伝内容は、①今日八月十五日はポツダム宣言受諾、一五年戦争敗戦七九周年記念日である。②一五年戦争で日本人三〇〇万人、アジア各地で二〇〇〇万人以上の犠牲者を出し、再び侵略戦争をくり返さないために、憲法九条を持った。③昨日一四日、岸田首相は総裁選挙不出馬を表明、自民党再生を言うが、全くのウソ。④改正政治資金規正法は、企業団体献金、パーティー券温存、政策活動費合法化、国民はそれを見抜き支持率最低、再選不能になった。⑤裏金疑惑はこれまでの汚職事件と違い自民党そのものの組織的犯罪であり退場すべき。

⑥安倍、菅、岸田政権は、「集団的自衛権の閣議容認」「敵基地攻撃能力の保有」など、国の進路を決める重要な方向性を国会の審議不十分のまま強行、立憲主義破壊の大罪を犯した。⑦裏金疑惑は、赤旗日曜版の調査報道、大疑獄事件となった。赤旗読者の増加と共産党議員の増員が日本の政治を変える力となる。

訂正とお詫び

「不屈県版」第409号、8月15日号

- ①3頁三段目左から8行目の
佐藤清吾氏→武藤清吾氏
- ②5頁二段目左から4行目の
柴田一雄さんは死去されました
- ③1頁二段目左から1行、3行、5行目の
道盟→同盟
確認不足お詫びします



「交告ちづさん」の呼びかけに応じて 原稿を書いてみましたが・・・

中濃支部郡上 畑佐 良治

八月一八日に開催された国倍同盟の「中濃支部総会」に、郡上から私を含む三人が参加しました。

その際、副支部長の交告ちづさんから、「岐阜県版の『不屈』の発行を担当されている小澤さんが、原稿集めに大変苦労しているので協力をお願いします」と発言されました。

私はこの発言を聞いて思いました。私も郡上年金者組合の「年金者だより」の発行を担当していますが、同じようにその原稿集めに苦労しています。そんなこともあって、交告さんの呼びかけに

応えて、下手くそで恥ずかしいけど「原稿を書いて送らないかなー」と思った次第です。

国賠同盟と同じく郡上の年金者組合も高齢化が進んでいます。昨年は「映画『わが青春つきるとも』」の上映を成功させることが出来ましたが、そうした活動や署名集めなどが、だんだん出来なくなっています。

そうしたことから年金者組合の郡上支部の方では、せめて「郡上・年金者だより」の発行には力を入れていこうと取り組んでいます。毎月B5の8頁で全頁をカラー刷りで発行

しています。前任者が緑内障でパソコンが使えなくなつたことから、ワープロを使つてはいたことがあつたものの、パソコンのPの字も知らなかつた私にお鉢が回つてきたのです。

それはちょうど五年前のことでした。パソコンを買つてパソコン教室で少し教えてもらい、発行回数が三二二二号を数えていた「郡上・年金者だより」を、原稿集めから始め、それを編集しパソコンで印刷して、どうやらどうやら発行することが出来ました。

あれから五年経過したこの九月には、三八二号の発行を数えるところまで来ました。「八〇歳のパソコンの手習い」には悪戦苦闘しました。でも今では楽しみながらパソコン教室

へ通っています。

「不屈」からは、いろいろ字がとがたくさんあり感謝しています。

歳を重ねてくると署名集めも以前のようにたくさん出来ません。活動が十分出来ない中でも、「不屈」は非常に大切であると思います。

私もこれを機会に、どこまで出来るか自信がありませんが、出来るだけ原稿を書いて寄せようと思っています。



裏金事件」上脇博之さんのオンラインによる講演から

岐阜支部 上坂 美子

岸田総理は突然総裁選に出ないことを表明しました。

裏金問題が発覚して支持率が二〇%になり政権を投げ出しました。岸田政権は「安保三文書」を閣議決定し、先制攻撃を可能にしました。自分の政権中に憲法を改定すると言っていました。

裏金問題は赤旗日曜版二〇二二年一月六日号に掲載され、上脇博之(神戸大学教授・法学部、憲法学)教授が告発して表面化してきました。パーティー券一枚二万円を一企業で二〇枚買えば四〇万円。参加した人はコロナ禍もあつてペットボトル一本とあれば丸儲けです。安倍派の裏金は五億円超、岸田派は三年で二千万円、岐阜の大野

泰正は三年で不記載五千一五四万円、自民党八五人不記載五・八億円。

憲法改定が発議され、国民投票一ヶ月前から毎日テレビ、ラジオのモニターで裏金を使って改憲宣伝を垂れ流し国民の意志を誘導する企みもあります。

上脇氏はこれからも告訴し続けること。地元市民が告訴すれば、それを手伝う弁護士がいれば告発できます。裏金問題を終わせない運動を九月の総裁選に向けて全国的にやる必要があります。次の総裁に変わっても運動を続けることが憲法を守る運動でもあります。勇気ある上脇氏に励まされました。



戦中の日本(二) ぼくらの学校は陸軍中野学校に占領

恵那支部 田口 進

(一)はじめに

昭和一九年三月、名古屋から父のふるさと静岡県浜松の天竜区に疎開した。父はニューギニアに派遣され、そこで戦死した。

長兄は浜松航空隊の飛行機の管理事務員で、戦争末期には知覧の特攻機の仕事に派遣されていた。「終戦に近くなると飛行機の製造もだんだん粗雑になり、ネジがはまらない所はハンマーでたたいて打ち込んであった」と語っていた。その頃になるとB29が御前崎の方から大編隊を組んで一萬メートル上空を飛行雲をはきながら飛んできた。どうも富士山をめざして飛んできたらしい。B29が西に曲がると名古屋方面の空が真っ赤に燃えた。東の方の東京方面に行くとも東の空が真っ赤に燃えていた。始めのうちは日本の戦闘機がむかい打ったが落ちてきたのは日本の飛行機ばかりで、ぼくらの村にも二機

落ちてきた。長兄の話では、日本のヒヨウキは一万メートル上空には上がれなかった。

(二)食糧の配給とだえる

昭和一九年頃になるとそれまでわずかにあつた食糧の配給もとだえ、まったく食べる物がなくなつた。野に生えている草を摘み、山に入って食べられる物は何でも取つて釜に入れて煮込み、わずかばかりのうどん粉をまぜてトロシをつけてすすつて飢えをしのいだ。

ある朝ぼくらの小学生に「全員集合」の号令があつた。しばらくすると、パカパカとけたたましい騎馬の音が聞こえた。

校門の入り口に五、六人の兵士が並ぶと、その内の一人が逆立ちになつて教壇のところまで来て、パット立ち上がり「諸君、この小学校を明日から軍隊が使う事になつた」と言つた。みんなびくびくして言葉も出なかつた。

戦争中、天皇の軍隊の言うことに従うしかなかつた。次の日、軍隊は大量の米と食料・荷物を持ち込んで学校を宿舍にしたのである。勉強どころではなかつた。兵隊達は立派な軍服を着て外套と軍刀をつけていた。兵隊は夜間に訓練し、観音山に穴を掘つていた。

この山はぼくらの小学校の五・六年生が学

校に強制されて切れないノギリで木炭自動車燃料の目的として、かな木を取りに半年近くも通つた山である。

観音山の頂上に立つて前方を見ると三方ヶ原に黄色(オオシヨク)の台地が広がり、低い山の起伏の向こうに浜松の市街が一望できた。遠州灘がキラキラ光つて見え、振り返ると頂上に雪をかぶつた富士山が間近に迫つて見えた。

(三)カマスに入れた「おごげ」

兵隊達は小学校の片隅で楮(こうぞ)・紙の原料(煮る大釜で飯を炊いて食べていた)を煮る大釜で飯を炊いて食べていた。当番制なのでいつも「おごげ」かせる。そのおごげをスコップでかきだしカマスに入れて捨てるのである。腹ペコのぼくらはそれをねらつた。ぼくらはそのカマスをかっぱらう作戦を立てた。その一つが兵隊に見つかつたら素早くズボンを下ろし、ウンチをするかこうをする。兵隊が「何をやってる」と言つたら「ハイ、ハイ、ハイ」と答えると「そんなところですか、早く向こうへ行け」と兵隊がどなる。その時スキをみつけてカマスをかきで土手を降りる。腹をすかした子ども達が「ワー」と集まつてきて「オコゲ」を食べた。とにかく食べることに子ども達は必死だった。

ある日、校庭で遊んでいると突然グラマンの大編隊が頭上すれすれに飛んで来た。先頭の三機が機首を下げ機銃掃射態勢に入つたが、小学校は播り鉢の底のような所に立つていてそのまま突つ込むと山にぶつかつてしまふので諦めて、大編隊は飛び去つた。

ぼくらの小学校を宿舍にした軍隊は、この地形を選んだのは相手の攻撃から身を守るためであつた。

(四)軍のトラックをねらう

腹ペコのぼくらは、山の畑に桑の実がいっぱいあつた、それを取つて食べると口も着ている物も真つ赤になつた。食べられる物は何でも食べた。国道に植えてある桜の実が真つ赤に



なるとそれを食べるため木に登り枝を伝って実を食べていた。この国道を軍が荷物を満載して連日山の奥へ奥へと運んでいた。トラックの荷物と桜の木の枝がすれすれで時には荷物と枝がぶつかる時もあった。最初は偶然にトラックの荷台上に飛び降り、小さい荷物を国道に落としたり。

子供らが荷物を担いで川の方へ逃げた。カンパンやいろいろ食い物があつたので、その後も軍用トラックの食い物をねらつたが、荷台上に兵隊の番人がおり、捕まったり、荷台上に乗り込もうとしても張り倒されたりした。

その頃から軍は「本土決戦」を叫び連日列を作つて山の奥へ奥へと荷物を運んでいた。

この時すでにアメリカ軍は太平洋艦隊を遠州灘に布陣していた。浜松、三方ヶ原の航空隊、軍需工場などは連日の艦砲射撃の攻撃にさらされていった。

上空からはB29の空爆を受けた。ぼくらの村に駐屯していた軍はアメリカ軍の攻撃が一望できる山に布陣し、本土決戦に備えていた。ところがある日忽然と姿を消した。沖縄にアメリカ軍が上陸した。

戦後二十九年を経て小野田寛郎は日本に帰つた。その時マヌコムの報道で彼は陸軍中

野学校二俣分校の第一期生であり、陸軍少尉であることが明らかになった。

(五) 陸軍中野学校の諜報活動

ぼくらの上阿多石小学校を宿舍として訓練していた兵隊は春隊と呼ばれていたが陸軍中野学校で諜報機関「パイ養成学校」であつた。のちに兵隊達は多くの戦場に派遣された。その数2131名、沖縄では護郷隊少年兵を組織した。中野学校の戦死者289名、行方不明者318名の中で残置諜者として一人生き残つたのがフィリッピンの小野田少尉であつた。

ところが彼の本当の任務はフィリッピンに残した日本軍の財宝とその地図の番人とも言われていた。大本営参謀情報記によると「戦争末期、フィリッピンでは、日本軍が発行していた紙幣軍票が使えなくなり、軍の物資調達用に何処でも通用できる純金のメダルが作られた。その数二万五千枚。表に福の刻印が押されていたので「マル福金貨」と呼ばれていた。小野田はその財宝の隠し場所の地図を持って二十九年間フィリッピンの山中に隠れていたという謎の多い人物であつた。そのためマヌコムの追求と旧軍人達の攻撃を受けブラジルに逃げた。

(六) 山一面にキノコの大群落

僕は終戦の年、かつての「つわもの」の夢の後「観音山に登った。山頂に近い所の切り株にたくさんの香茸が生えていた。手にとって匂いをかぐとなんともいえない香ばしい匂いがした。ズボンを脱ぎシャツも脱いで。パンツ一枚になり天秤にして家に帰った。母が「これ、コウノタケや、これどこで取つた」と聞くので「観音山だ」と言うのと「ソレー」と家族全員で山に登りたくさん取つた。一回では持ちきれずに、もう一回取りに行った。

その後、村中で大騒ぎになり、みんな籠を背負つて競い合つて香茸を取つた。

